



埼玉西部消防局 山岳救助隊 NEWS



春号

令和5年
4月
発行

埼玉西部消防局 山岳遭難事故発生状況

発生日	場 所	事 故 内 容	年 齢	程 度
12月18日	棒ノ嶺	転倒し前額部・右手部を負傷	62歳	中等症
12月28日	天王山	目眩により体動困難	55歳	軽症
1月 4日	日和田山	転倒し歩行困難	72歳	中等症
1月 5日	日向沢ノ峰	転倒し左下肢変形・歩行不能	52歳	中等症
1月 9日	日和田山	転倒し右足関節を負傷	68歳	中等症
1月24日	釜戸山	転倒し右下腿両骨骨折・歩行不能	65歳	軽症

上記の表は、令和4年12月16日から令和5年2月28日までに埼玉西部消防局管内で発生した、山岳遭難事故発生状況です。

いざという時のセルフ【レスキュー!!】



～トラブルへの対応は通常行動の延長線上で～

山岳遭難事故発生状況を見ても分かるとおり、登山中にケガを負って動けなくなってしまうことが多いです。万が一自分や同じパーティーの仲間がケガをしてしまった時は、冷静な対応で救助を待ってください。

ファーストエイドキット一例

- ・三角巾 ・伸縮包帯
- ・テーピングテープ ・皮膚保護テープ
- ・滅菌ガーゼ ・アルコールタオル
- ・ばんそこう ・綿棒
- ・体温計 ・感染防止手袋
- ・フリーザーバック(ジップロックなど)

救助隊が到着するまでの待機中

負傷者の保温に努め、こまめに様子を確認しましょう。状態に変化があった場合は、時間と状態の記録を残しておきましょう。また、通報に使った携帯電話は救助隊と連絡を取れる唯一のツールです。バッテリーを温存させ、着信などに備えておきましょう。

救助隊へ教えてほしい情報

- ・発生時刻
- ・発生場所(スマートフォンのコンパスを使い緯度、経度の情報など)
- ・負傷者の状態・人数・名前
- ・外的環境(どんな場所か、トラブルの要因)
- ・現在の状況
- ・登山ルート
- ・装備品(どんな格好、装備を持っているか)





～山岳救助研修～

埼玉西部消防局の管轄する西部地域は、秩父山系から延びる標高1000m級の山々に囲まれ、初心者からでも登山を楽しめる地域となっています。近年の登山ブームに加えコロナ禍による密を避けられるスポーツとして人気を博し、登山客の増加に比例し、山岳における遭難、事故も増加の傾向にあります。このような山岳遭難事故に的確に対応するため、山岳救助隊員が指導者となり、年に1回、各署から選抜された隊員が山岳救助に対する知識と技術の向上を目的とし研修を行っています。今回の研修では12名の隊員が2月14日～16日の3日間にわたり研修を受講しました。



開講式の様子



降下訓練の様子



救出訓練の様子



訓練終了報告の様子



登山届を提出しましょう！！

いざという時に、役に立つのが「登山届」です。消防・警察の山岳救助隊は、提出された登山届の情報をもとに、捜索活動を行います。登山届は、登山口に設置してあるポストや、埼玉県警察のホームページからも提出できます。また、家族や身近な人に渡しておくだけでも大きな情報源となります。

メンバー合計				名		
役割	氏名	性別	年齢	住所	携帯(自宅)番号	緊急連絡先氏名
						携帯(自宅)番号
チーフ リーダー			歳 (年 月 日生)			
サブ リーダー			歳 (年 月 日生)			
			歳 (年 月 日生)			
			歳 (年 月 日生)			
			歳 (年 月 日生)			
			歳 (年 月 日生)			
			歳 (年 月 日生)			
			歳 (年 月 日生)			
			歳 (年 月 日生)			
			歳 (年 月 日生)			
			歳 (年 月 日生)			
			歳 (年 月 日生)			
			歳 (年 月 日生)			

※登山届は登山する山を管轄する警察署、登山口設置の登山ポスト等へ提出してください。家族にも登山届を渡しておきましょう。